

肉まん

2021. 4. 12

4月5日（月）の夕方というか夜のことである。次の日は、生徒が登校し、着任式、始業式、入学式が行われる日である。教務主任の先生が、校長室にやってきた。何かの打ち合わせかと思ったが違った。

その先生は、昨年度、1年生を担当していた。今年度は教務主任となり、学級担任をしない。「最後の家庭訪問に行ってきました」とのことだった。その言葉には万感の思いが込められているように感じた。

その先生は、今年度で定年退職を迎える。ということは、昨年度担任した生徒が、最後の生徒となるわけである。担任発表は、4月6日（火）である。4月5日（月）の夕方の家庭訪問は、担任として最後にできることだったのだろう。

その先生は、どのような思いで家庭訪問に行ったのだろうか。一番心配な生徒だったのだろうか。「最後の家庭訪問に行ってきました」にすべてが込められていた。そしてである。「肉まんを買ってきました」と私に肉まんを手渡してくれたのである。泣けてくるではないか。

教務主任の年度当初は特に忙しい。息つく間もない中で、最後の家庭訪問に向かい、帰りには校長に肉まんを買ってきてくださったのである。自然と「この教務主任のためにもがんばらなければ」という思いが湧いてきた。なおかつ教員生活最後の年である。何としても有終の美を飾っていただかなければならないという思いを強くした。

きっと、あの肉まんのことはずっと忘れないと思う。校長室で一人で食べる肉まん、なかなかないシチュエーションである。

翌日の4月6日（火）、127名の新入生が入学式に臨んだ。何よりもうれしかったのは、全員が入学式に参加しているということである。小学校のときに、様々なことがあったとしても、人にはやり直したい、がんばりたいという本能のようなものがある。この思いを大切に受け止め、魅力的な学校をつくっていきたい。

この日の夕方には、何人かの先生方が「家庭訪問に行ってきます」と当たり前のように出かけていった。もちろん誰も肉まんは買ってこない。わずか数日間で、野田中学校の先生方には、生徒のことを心から思う教師としての“マインド”があるとわかった。これまた先生方が活躍できる環境をつくっていかねばならないという思いがふつふつと湧いてきた。

自分としては、もともとやる気はあったのだが、先生方の姿に触発されて、さらに意欲が増してきた。そのうち家庭訪問から戻ってきた先生方に、肉まんを手渡せればと思う。